



選挙と投票率



松本市長選挙が始まる。もともとこの館報が配布される頃には既に結果がでていることだらうけれど、今回はその結果では無く、「投票率」について考えてみたい。というのも、選挙の度に松南地区の投票率の低さがクローズアップされるからである。過去の選挙における投票率は、平成二十四年の衆議院議員選挙が下から七番目、平成二十三年の市会議員選挙は最下位、平成二十年の市長選挙は開票所別で開明小学校が下から二番目、総合社会福祉センターが下から四番目であった。投票率の低さは全国的にも問題になってきていて、様々な対策も考えられているようだが、投票率アップの特効薬は今のところ見つかっていないようだ。

松本市長選挙権は一部の高額納税者のみに与えられていて、その後、大正の末に二十五歳以上の全ての男子に許され、第二次大戦後の昭和二十一年に、ようやく二十歳以上の全ての男女に選挙権が与えられたという流れがあり、今年はいよいよ十八歳以上に参政権が与えられる。日本の選挙史上大きな転機を迎えることとなる。

選挙	投票率
若者低調	20代 25・81%
地区別	松南43・65%が最低

3月15日 市民タイムス朝刊より

完全普通選挙が開始され、今年が節目の七十年。当時の選挙風景を写真で見れば、晴れ着の女性や一張羅の背広を着た男性など、初めて与えられた貴重な一票を大切に扱っていたことが伺える。翻って現在の低投票率、原因は多々考えられるが、最大

の要因は「政治に無関心」といった時代の流れが考えられる。国会議員のゴシップや失言には群がるが、本流の討論や地方の政治には関心も無く、興味も無いのが実状だろう。

しかし、今年の選挙は興味深いものが多い。市長選挙は現職の四期目を新人二人が阻止できるか。(何やら不穏なメッセージが街中に張り出されているようだ) また、夏の参議院選挙は結果次第で、憲法改正の議論が一気に加速しそうである。私達の一票が松本を、そして、日本を変えられる可能性だってある。先人が様々な戦いをして勝ち得た「選挙権」という権利を、しっかりと活用してみてはどうか。 (伊藤 和彦)

第23回松南地区スポーツ健康フェスティバル

今までの「松南地区冬季球技大会」が「松南地区スポーツ健康フェスティバル」と名称を変え、2月7日(日)南都体育館において開催されました。当日は、朝の寒さが厳しく、



参加者数が心配された主催者からお聴きしましたが、会場へ足を運ぶと、なるほどな!と寒さを実感しました。そのなかで体協役員の数名がストープを用意し、器具を設置して競技実施に備えていました。感謝。

開会式は主催者側、続いて来賓の挨拶のあと、「夏季球技大会マレット部におけるホールインワン表彰」3名の紹介と記念品の贈呈がありました。このあと、寺平先生による「本当のラジオ体操」と「身体を使った楽しい体操」を体験する頃には身体が温かくなり、笑顔笑顔があちこちに見られました。

ソフトバレーやピンポンは歓声とラリーで盛り上がりを見せ、グラウンドゴルフ、マレットゴルフでの体験講座とマレットゴルフのホールインワン大会での景品を狙うも、外れて大きなため息も聞かれる



最後の「綱引き大会」は、紅白それぞれ所定の位置に着き競技開始。白が2〜3メートル優位の位置で、終了の合図かと思えども、なかなか引かれず、そのうちに相手に引き込まれて紅の勝利となりました。審判員に再試合を促すも、実施の声はなく、多数は床に座り込んで肩で息...これも勝負時間を延ばす「ルール変更」であり、体協役員の配慮に心憎さを感じるものでした。

競技終了と同時に閉会。百名あまりの心は、楽しさと心地よい「労」を背に帰路についた一日でした。 (田中 紀彦)

居酒屋公民館

会場は 町内公民館 地区公民館



◆居酒屋公民館「よつてけや」

平成二十年より、笹賀二美町二丁目町会では、毎月一回、町内公民館で開催しています。飲み物持参で、会費は五百円とか。つまみは、公民館の料理教室に参加している女性たちが担当。楽しい住民の交流の場となっています。

◆公民館居酒屋「おれんち」

島立の大庭町会では、平成二十六年より、月一回町内公民館で開店しています。会費は集めず、飲み物、つまみは持ち寄り、無理なく気楽に楽しんでいます。子ども、お年寄り、新しく移り住んでいる人達の良い交流の場となっています。

◆「居酒屋みやた」

平成二十六年十二月、宮田西町内公民館で「居酒屋公民館」が開店しました。店長は町内公民館長です。

飲み物、食べ物、つまみは全て参加者が持ち込み、ごみは持ち帰りを原則としました。

新年会、各種行事の後の懇親会とは違った顔触れも

あり、新たな交流の場となっています。

◆居酒屋公民館(中央)

平成二十七年十月、松本市の中央地区地域づくりセンターと公民館が主催で、地区公民館で開かれました。

地区十六町会全戸にチラシを配布、集客のために、当日は「男性ふれあい健康教室」「町会長会」もセットされていたそうです。三十人が出席し、酒を酌み交わし、心地よい語りいで親睦を深めたそうです。

◆「居酒屋かんぼう(松南)」

公民館報「松南版」編集委員会では、定例の委員会の後に年二回程度の居酒屋を開店しています。特に秋はきのこ鍋、松茸おにぎりが定番になっています。上條公民館長らが苦勞して収穫してきた「きのこ鍋」の味は格別です。

(塩原 保彦)



平成二十二年から二十七年、松南地区公民館長を務められた上條恒嗣さんを、あらためて紹介いたします。

上條さんは、松本市役所を定年退職後、当公民館長に就任しました。住民の皆様ご承知のように多趣味で、多種の地区の行事の中でその特技を楽しませていただきました。

●サッカー

高校時代は県陵サッカー部で活躍。長く長野県サッカー協会の副理事長や審判長を務め、昨年末には北信越サッカー協会事務局長。現在は市サッカー協会の副会長。特に県の審判長時は北信越フットボールリーグの審判を二十七試合担当(この頃、当時石川県の星稜高校でプレーしていた本田選手と出会ったことが懐かしい思い出と語っています)指導者としては少年サッカーで旭町の監督を約二十年務め、松南地区の南松本チームとは良いライバルであったようです。

ひと 上條恒嗣さん

●草笛

信州草笛の会理事、安曇野草笛会代表としてボランティアで地元の敬老会や保育園で演奏活動をしています。得意な分野は演歌とか。

●カービング

野菜や果物を小さなナイフで繊細な草花に彫り上げ、食卓に彩りを添えます。(タイ王国で七百年以上の歴史を持つ伝統芸と言われています)ソープカービングと合わせ、講師の声もかかっています。

●野鳥

信州野鳥の会の会長。会員は全県から二百十八名、その三／四が松本近郊の会員で、年間に三十回を超える探鳥会を楽しんでいます。県内あちこちで観察会を開いていますが、ホームはアルプス公園です。機会がありましたら是非参加されてみたいかがでしようか。上條さんは野鳥の他にも山菜やキノコにも詳しく鑑定もしています。かつては剥製も作り、博物館へ寄付をしていましたが、今はバードカービングを楽しんでいます。

松南地区館報編集委員会では名進行役で、会議を1時間できちんと楽しくまとめています。

(塩原 保彦)

コラム 松南

二年程前、俗に「ガラケー」と呼ばれる携帯電話を娘に説得され「スマートフォン」にさせられた▲私達夫婦はずっと同機種(わかり易く操作が同じで色違いのもの)を変更するにあたり、妻は「リンゴのマーク」にするというが、私は画面も字の大きさも目に辛く別の機種、日本のS社のアンドロイドにした▲案の定困った。戸惑いながら二年、やっと何とか困らないまでに使えるようになった。それでも「パスワード」「ID」の忘れてしまう事が心配▲片や世の中の若い方々、これだけ個人情報保護が叫ばれているから、「ブログ」だの「SNS」「インスタグラム」「ツイッター」だの、自身で情報を「ダダ漏れ」させて、事件や騒動を巻き起こしている。インターネット世代の人々も自分自身を守る事に注意を払うべきではないか。そうでなくても「マインバー」で国に管理され、通販その他でも個人情報丸裸にされているのである▲こんな風に思うのは「乗り遅れの初老の男」の愚痴でしかないのか▲「君子危うきに近寄らず」は憶病すぎるかな？

(百瀬 壽)